

理科(生物)

名古屋大学 理学部、農学部、医学部、情報学部

(自然情報学科、コンピュータ科学科) (前期)

1 / 1

＜全体分析＞

試験時間 情報学部－自然 1科目で75分
情報学部－コン・医・理・農学部
2科目で150分

解答形式

記述・論述式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

大問数が4題から3題に減少し、設問数も減少したが、1題あたりの問題文の分量が増加し、全体のページ数は昨年とほとんど変わらない。

「生物」の内容からの出題されており、「生物基礎」の内容からの出題はなかった。また、すべての大問において遺伝子に関する内容が含まれていた。

その他トピックス

特になし。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	記述 論述 選択	X 染色体不活性化	生物	(2) メチル化されていない場合は、制限酵素によって切断されるので、PCR によって増幅されず、バンドが出現しない。 (5) 選択肢のうち(b), (e)以外は、変異後の指定アミノ酸配列が変化しないものが含まれる。	やや難
II	記述 論述 選択	類人猿の尾の消失	生物	(4)の設問文の内容からでスプライシングのしかたを理解することで、(2)や(3)の解釈につなげる。	やや難
III	記述 論述 選択	共進化・送粉系の相互作用	生物	図2, 3に多くのグラフがある。どのような個体の何の量を調べているのかを正確に把握する必要がある。変異体Bは野生型に対し、6時間ほど位相が前進している。 (9) JA合成酵素遺伝子欠損変異体では、食害があっても特殊花にはならないので、食害無しの場合と同じ結果になると考えられる。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

単に知識を問われる問題の割合は低いですが、知識に基づいた考察問題も出題されるので、まずは教科書の内容を正確に習得することが大切である。また、文章が長く、内容も複雑なものも多いので、普段から、問題文はきちんと読むことを心掛け、問題集などを活用して実験・考察問題の演習を十分に行っておこう。